

雲南ニュース



地域づくりの人材育成

ファシリテーターへのはじめの一歩講座

地域づくりの人材育成を目的に「ファシリテーターへのはじめの一歩講座」が、10月13日を初日とする3回のシリーズで、サンワーク木次を会場に開催されました。

ファシリテーターとは、会議の場で、総意をまとめ上げるのに優れた手腕を発揮する進行役のことで、講座は、NPO法人ひろしまねの村田秀淑さんをメイン講師に招き行われました。



はじめに、地域づくりでやりたい事を紙に書き、その説明と自己紹介に合わせ、同時に相手の思いを聞く「アイスブレイキング」により、短時間に一体感をつくることから講座はスタートしました。その後、30人の受講者らは各グループに分かれ

「批判しない・演説しない・どんな意見も歓迎・質より量」というルールによるワークショップを行いながら、各テーマに沿ったプログラムを作成していきました。

参加者からは、もう少しじっくり学びたいとか、今後も技量アップの講座を実施して欲しいとの意見もあり、充実した講座となりました。



いのちと環境を守る健康づくり、地域づくりに取り組もう

全国健康むら21ネット第3回集会



全国健康むら21ネットと雲南市木次町健康むら大会実行委員会主催による「全国健康むら21ネット第3回集会」が、11月11日に木次町勤労青少年ホームで、およそ200人が参加し開催されました。全国健康むら21ネットは、食の安全や大切さについて

地域（健康むら）で取組もうと平成18年4月に大阪市で設立され、第2回集会是豊岡市、第3回がこのネットの顧問である木次乳業(有)相談役佐藤忠吉氏の推薦で木次の開催となりました。

集会では「産科医からのいのちの警鐘と食育・健康づくり」と題して、産婦人科の専門医で笑いの医学的効用を研究されている昇幹夫先生の講演や「今治市の学校給食と健康づくり」と題した今治市役所の安井孝氏の地産地消に関する講演など、特に子どもたちの健康づくりや食育、安全・安心の食料環境に取組むことが話し合われました。

農林水産省の補助事業として採択された加茂西地区経営体育成基盤整備事業の起工式が、12月6日、延野自治会館で行われました。生産性の高い農業基盤の整備と農業担い手の育成を図る同事業では、赤川右岸の加茂町延野原を中心とする農地33.5haの区画、農道、水路等の整備を総事業費約7億7千万円（うち国50%、県27.5%、市10%、農家12.5%）かけ実施します。

式では、加茂西地区土地改良組合の岡 精一委員長が「地元の念願であった圃場整備が着手され、うれしく思います。農用地の効率的利用、農作業の省力化、生産性の向上のための営農を積極的に取り組んでいきたい」とあいさつしました。



今回の区画整理は、大竹工区、延野工区、大崎・猪尾工区で施工され、受益者（土地を持たない不換地者を含む）124名で、平成23年度の完成をめざしていきます。

県営経営体育成基盤整備事業

加茂西地区 起工式



にぎやかに祝賀パレード

県道玉湯吾妻山線バイパス開通

今回の整備により県道と県道間の接続が便利になりました。

大木原土地区画整理事業により整備してきた「主要地方道玉湯吾妻山線バイパス（神田大通線）」が竣工し、11月24日、供用開始にさきがけ開通式が行われました。

主要地方道玉湯吾妻山線バイパスは、大東公園市民体育館前から主要地方道松江木次線までの区間を結ぶ幹線で、延長340m、幅員19m、事業費約3億6千万円（島根県3千万円と雲南市3億3千万円）をかけて完成しました。開通式では、島根県や市、地元関係者などがテープカットとくす玉割りで完成を祝った後、大木原とんだ太鼓メンバーや大東保育園園児らも加わり、勇壮な太鼓の響きとともに約130人が記念パレードを行いました。

情報発信、地域交流拠点に

雲南情報プラザオープン



この情報プラザは、現在本格的に工事がすすむ中国横断自動車道尾道松江線の島根県内区間（24.6km）に関する情報発信・地域交流拠点、同事業に関する窓口施設として開所し、施設内には、計画概要図や航空写真のパネル展示などの事業に関する図書コーナー

11月17日、旧島根県掛合地域農業普及部の施設を利用した国土交通省松江国道事務所の「雲南情報プラザ」がオープンしました。

も備えており、将来は広報専門員の配置も予定しています。

雲南情報プラザ

☎0854-62-9590